

授業科目名	ウイメンズヘルスⅠ <i>Women's Health I</i>		担当教員	永松 美雪	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	15(1)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	周産期女性の健康に影響を及ぼす思春期や成熟期の健康問題とその支援について学ぶとともに、女性の健康の支援者である助産師のあり方について考察する。				
到達目標	1. 助産師のケアは出産に関連するケアにとどまらないことを理解する 2. 女性の健康にかかわる助産ケアの重要性を理解する 3. 思春期女性と成熟期女性の健康と周産期女性の健康との関連性について考察できる				
授業計画	1回 助産師が支援する女性の健康 (永松) 2回 思春期女性の成長と発達 (永松) 身体発達、性機能の成熟、心理・社会的発達、アイデンティティの形成 3回 思春期女性を取り巻く社会的問題、思春期女性の健康問題 (永松) 月経異常、若年妊娠、性感染症、摂食障害、デートDV・性暴力 4回 思春期女性の健康が周産期女性に及ぼす影響〈事例検討〉 (永松) 5回 成熟期女性の身体的成長 (永松) 成熟期前期と成熟期後期の特徴、女性ホルモンと成熟期女性の身体 成熟期女性の健康問題：子宮内膜症、子宮筋腫 6回 成熟期女性の心理・社会的発達 (永松) 成熟期女性のライフコース、取り巻く社会環境(結婚と出産、仕事と育児) 7回 成熟期女性と不妊 (外部講師) 8回 成熟期女性の健康を支援する助産師の役割〈事例検討〉 (永松)				
学習方法	助産ケアの主な対象である周産期女性を理解するための視点を強化する。周産期における助産ケアには、対象者理解において思春期や成熟期女性であるという視点を持つことが重要である。周産期において女性の健康を支援する助産師の役割とは何かについて問いながら学習を進めていく。授業は、講義とプレゼンテーションを組み合わせる。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール(永松:m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp)にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	堀内成子 編集：助産診断・技術学Ⅰ，第5版。東京，医学書院，2013。 吉沢豊予子他：助産師基礎教育テキスト 第2巻。日本看護協会出版会，2017。				
参考文献	吉沢豊予子編集：女性生涯看護学 リプロダクティブヘルスとジェンダーの視点から。東京，真興交易医書出版部，2004。 井上裕美：病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科(第2版)。東京，メディックメディア，2009。 大竹恵子：女性の健康心理学。京都，ナカニシヤ出版，2004。 佐藤和雄他：臨床エビデンス婦人科学。東京，メジカルビュー社，2003。				
評価方法	授業参加度(10%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)、筆記試験(50%)				